

報道関係者 各位

平成22年7月21日 17:00
厚生労働省健康局結核感染症課
照会先:中嶋、江浪

新型インフルエンザ患者の国内発生等について

新型インフルエンザ患者の国内発生について、平成22年7月20日時点の「平成22年6月14日から平成22年7月18日の週別内訳と平成21年7月28日時点入院以降の年齢別内訳の重症サーベイランスの報告」を別紙のとおりとりまとめましたので、お知らせいたします。

なお、「インフルエンザ様疾患発生報告」においては、次週から、夏季休業期間中を含めた学校等における集団発生の状況について、報告内容を追加して公表する予定です。ご参考までに当該通知文を添付いたします。

インフルエンザによる重症患者・死亡者の概況

平成22年7月21日時点

(1) 患者の推移

期間	1月以前	2月	3月	4月	5月	6月	7月	6月14日 ～6月20日	6月21日 ～6月27日	6月28日 ～7月4日	7月5日 ～7月11日	7月12日 ～7月18日	計※1
急性肺炎 (人工呼吸器装着)	409人	18人	2人	3人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	434人
急性脳症	520人	20人	2人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	545人
集中治療室入室	957人	39人	5人	6人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	1010人
計※2 (一部重複あり)	1481人	58人	8人	10人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	1560人
死亡者※3	186人	9人	3人	0人	1人	2人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	201人
(うち基礎疾患を有する者) (再掲)	138人	6人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	145人
(うち入院外死亡者) (再掲)	28人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	29人

(2) 年齢別内訳

	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計※1
急性肺炎 (人工呼吸器装着)	7人	51人	144人	22人	7人	13人	19人	34人	52人	34人	37人	14人	434人
そのうち基礎疾患を有する者	2人	18人	72人	11人	6人	9人	14人	25人	40人	32人	34人	12人	275人
急性脳症	9人	114人	249人	87人	28人	14人	9人	8人	8人	8人	8人	3人	545人
そのうち基礎疾患を有する者	1人	25人	51人	24人	6人	2人	5人	3人	6人	8人	5人	2人	138人
集中治療室入室	25人	160人	368人	100人	28人	32人	42人	53人	64人	55人	60人	23人	1010人
そのうち基礎疾患を有する者	12人	50人	156人	38人	9人	17人	28人	36人	51人	46人	55人	19人	517人
計※2 (一部重複あり)	32人	252人	618人	181人	49人	43人	50人	64人	92人	73人	74人	32人	1560人
うち基礎疾患を有する者 (再掲)	13人	73人	221人	60人	13人	19人	33人	44人	74人	63人	67人	27人	707人
死亡	3人	18人	13人	6人	3人	11人	14人	32人	31人	25人	23人	22人	201人
(7月12日～7月18日の死亡者)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)	(0人)
そのうち基礎疾患を有する者	1人	3人	4人	4人	1人	6人	9人	23人	25人	25人	22人	22人	145人

※1 7月28日時点で入院中、または7月29日以降に入院した各患者の累計数(入院日を登録)

※2 入院中に一時期でも、急性脳症に罹患、急性肺炎を罹患し人工呼吸器を装着、または集中治療室に入室した患者の数(入院日を登録)

※3 死亡日を集計

※4 先週発表後における、自治体による前週以前のデータ修正を反映済み

※5 死亡者については、新型インフルエンザによる死亡のみを計上

健感発0715第 2号
平成 22年 7月15日

各

都道府県
保健所設置市
特別区

 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

「インフルエンザ様疾患発生報告」の継続等について

新型インフルエンザ（A/H1N1）対策については、多大な御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

地域における感染拡大の探知のためのサーベイランスとして、「昭和48年9月20日付衛情第102号インフルエンザの防疫対策について」に基づき、インフルエンザ様疾患発生報告を継続して実施していただいているところです。

現在、インフルエンザは、散発的な発生にとどまっていますが、新型インフルエンザ（A/H1N1）は、引き続き再流行の可能性があり、国としても、その端緒を早期に把握することが必要と考えております。

このため、新型インフルエンザ（A/H1N1）の集団感染、とりわけ感染拡大の端緒となる可能性の高い学校等における集団発生等の状況について、学校における夏季休業期間も含め、引き続き把握していく必要があることから、別紙に基づき、報告内容を追加のうえ、継続して実施いたしますので、ご了知いただくとともに、関係機関への協力依頼をお願いします。

「インフルエンザ様疾患発生報告」の継続等について

第1 目的

学校におけるインフルエンザの流行状況を引き続き把握するため、インフルエンザ様症状の患者の発生による管内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の休校数等を把握する。

現在、インフルエンザの流行は小康状態にあるものの、今後、夏季休業期間における集団感染の発生や、秋以降の流行拡大も想定されるため、流行拡大の端緒を早期に探知し、またウイルス性状の変化を捕捉することを目的として、学校等における集団的な患者発生の把握を行う。

第2 実施の概要

1 現行の報告内容

- (1) 保健所は、管内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、専修学校及び各種学校と連携し、インフルエンザ様症状（※）の患者による臨時休業（学級閉鎖、学年閉鎖、休校）の状況及び欠席者数を把握する。
- (2) 保健所は、入手した情報について、一週間分（日曜日から土曜日まで）を集計し、翌週火曜（休日の場合はその翌開庁日）までに NESID に入力を行い、都道府県、保健所設置市又は特別区（以下「都道府県等」という。）の本庁に報告する。

2 現行に追加する報告内容

- (1) 保健所は、保育所、高等専門学校及び大学において、インフルエンザ様症状の患者の発生後7日以内に、その者を含め10名以上のインフルエンザ様症状の患者の集団発生が見られた場合を把握する。
- (2) 保健所は、学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校、大学、専修学校及び各種学校）の夏季休業期間中の課外活動において、インフルエンザ様症状の患者の発生後7日以内に、その者を含め10名以上のインフルエンザ様症状の患者の集団発生が見られた場合を把握する。
- (3) 保健所は、入手した情報について、一週間分（月曜日から日曜日まで）を集計し、翌週火曜（休日の場合はその翌開庁日）までに iNESID に入力を行い、都道府県等の本庁に報告する。

3. ウイルス性状の変化の捕捉

保健所は、1及び2の情報を受けてインフルエンザウイルスの型・亜型の確認検査をおこないインフルエンザウイルスの型・亜型の情報を把握するように努めるとともに、集団発生時のインフルエンザ様症状の患者が、新型インフルエンザ（A/H1N1）の場合は、可能な限り複数の患者の検体（咽頭又は鼻腔拭い液、うがい液等）を採取し、地方衛生研究所において、抗原性、抗インフルエンザウイルス薬への感受性等を調べ、病原性の変化の把握等に可能な限り努めることとする。

第3 実施時期

本通知のサーベイランスは、7月18日（日）から新型インフルエンザ（A/H1N1）の流行拡大を探知するまでの間、実施することとする。

なお、変更又は終了の際は、改めて連絡を行うこととする。

第4 その他

- 1 第2の3の検査を実施し、季節性あるいは新型に限らずインフルエンザ陽性であった場合、地方衛生検査所は、NESIDの「病原体検出情報システム」における病原体個票及び集団発生病原体票にデータを登録する。
- 2 「インフルエンザ様疾患発生報告」については、厚生労働省において、従来通りに公表を行い、第2の2（1）及び（2）についても、同様に公表を行うこととする。

※ 「インフルエンザ様症状」とは、38度以上の発熱かつ急性呼吸器症状（鼻汁若しくは鼻閉、咽頭痛、咳のいずれか1つ以上）を呈した場合をいう。

「インフルエンザ様疾患発生報告」の入力について

	保育所		幼稚園～高等学校		高等専門学校、大学	
報告内容	インフルエンザ様疾患発生報告」(NESID)	7日以内に10名以上の集団発生 (iNESID)	インフルエンザ様疾患発生報告」(NESID)	夏季休業期間中の課外活動 (iNESID)	7日以内に10名以上の集団発生 (iNESID)	夏季休業期間中の課外活動 (iNESID)
	NESID	iNESID	NESID	iNESID	iNESID	iNESID
	夏季休業		夏季休業		夏季休業	

(留意事項)



保育所及び学校の休校、学年閉鎖、学級閉鎖については、これまで通りに、NESIDに入力を行う。
 新たに追加する、「保育所、高等専門学校及び大学の7日以内に10名以上の集団発生」、「学校の夏季休業期間中の課外活動」については、iNESIDに入力を行う。

- 例1) 8月に保育所から休業の連絡がなされた場合 ⇒ これまで通りにNESIDに入力
- 例2) 学校の夏休み期間中の授業日の休校等 ⇒ これまで通りにNESIDに入力

「インフルエンザ様疾患発生報告」の継続等についてのQ & A

問1 今回のインフルエンザ様疾患発生報告の継続等の目的は何ですか。

次のことを目的として実施するものです。

- ① インフルエンザの流行拡大の端緒を早期に探知するために、特に学校等を対象とした集団発生の把握を行うこと
- ② インフルエンザ様疾患患者から得られた検体を用いて、ウイルス性状の変化の有無を捕捉すること

問2 夏季休業期間中の課外活動とは、どこまでの範囲になりますか。

学校の設置者又は校長が、当該学校の教育活動として把握している課外活動をいいます。具体的には、合宿、サマーキャンプ、部活動等が考えられます。

なお、いわゆる学校の夏休み期間中の授業日（登校日、臨海学校等）については、従来どおり「インフルエンザ様疾患発生報告」として、休校等があった場合に、学校の設置者が保健所に連絡することになります。

問3 第3におけるインフルエンザウイルスの型・亜型の確認検査というのは、PCR検査のことですか。

インフルエンザウイルスの型・亜型の確認検査については、現状では、地方衛生研究所において、リアルタイムPCR検査を用いて行われるのが一般的です。迅速検査は、通常、医療機関で臨床診断の補助として行われており、新型インフルエンザであるかの判断はできません。

問4 今回の「インフルエンザ様疾患発生報告の継続等について」は、いつまで実施されるのですか。

このサーベイランスは、新型インフルエンザ（A/H1N1）の流行拡大の端緒を早期に探知することを目的としています。流行拡大に伴い、変更又は終了する場合は、改めて連絡を行います。

問5 保健所から厚生労働省への具体的な報告の方法を教えてください。

今回、新たに追加された報告内容の報告については、今後作成配布される「インフルエンザ様疾患発生報告について（iNESID 版）」を参照に、iNESID において報告をお願いします。